ちょうふの自然だより

2010.12.1　2世紀 4号

ちょうふ環境市民会議　info@chofu-kankyo-shimin.org　発行部数：1000 部

実りの秋 彩りの秋

下の写真は十一月二十九日の佐須の風景です。刈り取られた田んぼの稲から新しい目がのびています。右は自然広場の脇にからまるカラスウリ。十数個がつらなり朱色に輝いていました。写真は全て市内の田んぼや雑木林で撮ったものです。自生の草花を見つけるのは心なごみむひとときです。

カントウヨメナの花が田んぼのあぜに数輪咲き残っていた。（11.29　佐須の田んぼ）

ヒヨドリジョウゴの実は小さなトマトのように透き通った感じで赤い。（11.28 入間樹林）

真っ赤な実から顔を出したゴンズイの種ももう落ち始めた。（12.4 都市森の丘）

大木を這い登るキヅタ（フユヅタ）の花も盛り。ウコギの仲間で地味な花ですが。（11.28 入間樹林）

キチジョウソウの花は葉より丈が低く、咲いても気づかれないことが多い。（11.28入間樹林）

ヤブムラサキの実。左の先にポヤポヤの毛に覆われた冬芽が見える。（11.28 入間樹林）

ヤブランの実。緑から黒へと変わる。（11.28 入間樹林）

フユノハナワラビ。スクっと立っているのが胞子葉、下に広がるのは栄養葉。（11.28 入間樹林）

マンリョウの実。千両より重みがあるので実は下向きと覚えるそうな。（11.28 入間樹林）

花の履歴書

キチジョウソウ（吉祥草）

戸部英貞（絵・文）

キジカクシ科

Reineckia carnea Kunth

名前を聞いただけでも幸せになりそうなキチジョウソウは初冬の頃、薄暗い林の中で葉の間から花茎を伸ばし、淡い紅紫色の小花を総状に咲かせる。

「吉祥草」の名は植えられている家に吉事があると花が咲くという意味で、開花するのが珍しい植物とされているが、自生地が薄暗い林の中や初冬という季節から、開花を気付かずにいることが多く、この名を得たのだろう。

キチジョウソウは1属1種の近縁種のない植物で、関東西部から四国・九州を経て中国大陸までの山地に生え、古くから庭園の下草やグランドカバーとしても使われている。市内でも深大寺周辺の雑木林で見かけるが、本来の自生か、栽培していたものが逸脱したものかは明らかでない。

我が家の狭い庭にも、植えた記憶のないキチジョウソウが、ほかの植物が育たない薄暗いツバキの樹下を占領し、晩秋になると特別な吉事が思い当たらないのに毎年花を付けているが、気付かずにいることもある。

花の終わった後の果実は1年がかりで、次の花が咲く頃に赤く色付き、寒さが深まる頃、熟した実は赤い透明感のある色になり、花の時よりも目に付きやすくなる。そして目ざとい小鳥たちによって新天地に運ばれて行く。

庭のキチジョウソウがあまり領域を拡げるので、時には少し制限しようかと思うが、この実の美しさと「吉祥草」の名のせいか手が出せないでいる。

残り少なくなった師走、野の花も絶えたこの季節の一日、崖線の雑木林を散策してはどうだろうか。薄暗い樹林の中で、透き通ったルビー玉のような実と薄紫の花に出会えたら、これこそが今年の吉事だろう。

■多摩川アレチウリ調査■

10月26日　今回で5年目となるこの調査は環境モニターの有志数人がリバーミュージアム研究会のお手伝い、という形でおこなってきたものだ。駆除の必要性が言われているアレチウリだが、調査をしてみると、年によって繁茂の状況が違い、特に台風などの大水には流されやすいことがわかった。今年の繁茂状況は例年並といったところだろうか。一年生草本だが、毎年見られるところは殆ど同じ場所である。またアレチウリが少ないところにはクズがはびこっているので、アレチウリだけを刈り取っても小鳥達の営巣地となるような良好な河原になるのはむずかしそうだ。（NK）

アシその他の植物の上を覆うアレチウリ

都市森の丘を訪ねて

調布市の住宅地図で深大寺元町五丁目のあたりを開くと「都市森の丘」という表記が見える。ここは植物公園の土地を十年ほど前から都民ボランティア（22世紀の森づくり・神代）が管理し創り上げた雑木林だ。

ほぼ一ヘクタールにあたる土地は以前からの赤道によって二箇所に分かれており、先に植樹がされた北側はそれ以前はゴルフの練習場だったことを覚えている方もいるのではないだろうか。ここには盛り土がされ小さな丘が築かれている。こちらは様々な種類の樹木が植えられこの時期はフユザクラも咲いている。

南側の場所は武蔵野の雑木林らしくたくさんのクヌギ、コナラ、シデの合間にイロハモミジ、コブシ、エゴノキ、キブシ、ガマズミ、マユミ、ゴンズイ、マンサク、リョウブなどなど、数多くの中低木も植えられている。植樹をして枯れてしまった木もあるが、ドングリを撒いて育てたクヌギ・コナラも有り、十年で植えた樹木は八百本ほどになる。

ところどころ樹名板も立てられているがだめになってしまったものも多く、樹名を調べるのも楽しみの一つ。

色鮮やかなイロハモミジと桃色に色づいたマユミ

またメンバーの中には出現してきた草本植物を長年記録し他の植物好き仲間と協力し目録を作成している人がいる。こちらは最初の5年間分をまとめたものがあるが、今年度中には二〇〇六年～二〇一〇年の記録をまとめるという。

植樹によって出来た森だが、自然発生的に表れた草本類はアマナ、ノジトラノオ、ヤマユリと、こちらも三百種以上のものが出現しているのには驚かされる。

気持ちの良い雑木林になっているここは今後の変化も楽しみな場所だ。

（22森・鍜治）

市民活動の記録こーなー

◆若葉緑地の会

10／10（日） 参加者12名

雨の為、入間地域福祉センターにて話し合いをし、お互いの意志疎通が出来ました。

・NTTの場所は公園化して開放してほしい
・虫も多そうなので、子供達を遊ばせたい

第3緑地については
・まだ高木があるので暗い
・自生している植物の写真とリストを作ったらどうか
・痛んだ杉の木の間伐をして欲しい
・午後も自由参加で活動をする

11／14（日） 参加者9名

暖かいので、センダングサ、イヌタデ、クズ、ヨウシュヤマゴボウ、等が大きくなり過ぎたので草刈りをしました。

下部の片付け。ロの字型に枝を積み上げて、綺麗になりました。

11／25（木） 参加者4名

倉庫横に簡単に草木溜めを作り、刈った草を早速入れました。倉庫内にニホンヤモリが2匹いましたよ。オンブバッタのメス、カミキリなども緑地内にて確認しました。（住田）

マヤラン

ニホンヤモリ→

◆入間・樹林の会

10／17（日）は、7人で方形枠調査をしました。ひび割れていた地面もようやく雨で湿ってきていますがまだ乾燥気味です。猛暑の影響なのかアズマネザサの葉が白く枯れたようになった光景が樹林地内のあちこちで見受けられました。

樹林地内の今後の保全について、根本さんからは、落ち葉かき、ツバキ林（西側斜面地）の細木の伐採や杉の伐採での通風性の確保、竹の根切りなどが指摘されました。

花はミズヒキ・ハエドクソウ・ヤブラン・ヤブマオ・ナキリスゲ・ヒナタイノコズチ・ヤブタバコ・トネアザミ、実はヨウシュヤマゴボウ・ヤブミョウガ・ヤブラン・マテバシイ。昆虫は、カメムシとあちこちにおなかの赤いジョロウグモがみられました。

トネアザミ

白く枯れたアズマネザサ

11／21（日）6人の参加者で樹林地内の探索後、雑木林塾での作業について打合せし、下草刈りとシュロの伐採にすることにしました。その後、ツバキの林のシュロ・枯れた竹や木などを伐採、片付けて見通しをよくしました。

咲いていた花は、キチジョウソウ・ツバキ・ツワブキ、実はヤブミョウガ・ヤブラン・シラカシ・ヨウシュヤマゴボウ・マンリョウ・センリョウとヒヨドリジョウゴの赤い実がたくさんついていました。マテバシイの今年の実りは少ないです。（安部）

ツワブキ

◆カニ山の会

10／9（土） 参加者7名

キャンプ場北側ツバキ畑跡地の整備について打ち合わせを行った。カニ山の会が主となり雑木林として再生し、萌芽更新による維持管理を目指す。多くの市民が関わる、長期間の事業として調布市との協働事業として実施することが望まれる。市民を公募した事業とすると事務量が多くなるのでちょうふ環境市民会議とも協同で進めたい。秋にドングリ拾いを予定。

東樹林に関してはシュロの伐採に取り組む。来年の3月より、萌芽更新にも取り組みたい。

11／13（土） 参加者8名

自然だよりを見て、新たに2人が参加。笹が密集しているエリアについて、選択的に刈り取りを行った。

樹林中段、東側階段上側のシュロを伐倒。シュロの樹皮の使い方についてシュロ縄、たわしなどにして環境フェア等で販売したらどうか、などの意見が出された。

その後ドングリ苗育成のための竹ポット作りを行った。来年度に向けて、苗木を育てるためにドングリ拾いを行ったが、今年は不作。

（活動報告より）

シュロ皮のタワシ

竹を切って苗ポット作り

◆環境モニター

11／6（土） 晴れ 参加者22名

「国領の昔の様子と樹木を見る」と題してそぞろ歩きを行いました。

モニターメンバーの他一般参加者は9名。

国領駅前から品川通りに向かう途中、大きなイチョウの残る農家を訪ねた。ギンナンの実がござの上でどっさり干されていたのが印象的。

その後は禅寺丸という種類の柿の実をごちそうになり、旧品川通りへ。

現多摩川住宅の芝地では不動の森のエノキとヤドリギを見学。せせらぎの小道上にある窪地はかつてのワサビ田の跡だそうで、これは地元生まれの榎本さんだからこそ知っていること。

そぞろ歩きをする度にかつての自然の面影が消えていくのがわかり淋しい。（鍛治）

ワサビ田の石垣が残る

◆田んぼの学校

11／23 勤労感謝の日（旧新嘗祭）、田んぼで今年の収穫祭を行いました。

収穫はうるち米、もち米あわせて約120キロでした。3畝の田んぼではまずまずでしょう。20キロのもちを搗いて、太陽の恵みに感謝しつつおいしく頂きました。翌日、うるち米も頂きましたが、そのおいしさにあらためてびっくりしました。自分たちの手で作ったことを差し引いても格別のおいしさでした。雑木林の落ち葉で作ったたい肥、無農薬にこだわっています。皆さんも自分でお米を作ってみませんか。（尾辻）

秋の恵みで遊ぶ

上の花炭はマツボックリ・フウの実・ツバキの葉っぱなど。左は竹の節のところを切って炭にしました。なんだか愉快なオブジェが！どちらもカニ山キャンプ場で作りました。

夏から押し葉にしたアオギリの葉っぱ凧ホントに揚がります。

多摩川の土手で採取したクズを使って作った小さなバスケット。クズは採取したてが扱い易いですが、硬く乾燥してしまったら水でもどして作ってください。カゴの中にはマツボックリ、赤いノイバラノの実、そしてツバキの実がはじけたカラを入れました。

ちょうふの自然みつけた！

環境市民会議メンバーのメーリングリストより

10月26日　本日アレチウリ調査に参加して多摩川を歩きました。平日でしたので人も少なく、水面を眺めながらの帰り道二ヶ領上河原堰の上流でオオバンが7羽群れていました。冬の到来が近い思いでした。カワセミが目の前の小枝にとまって水面を眺める姿を見られたのも平日の特権かも。

◆24日の日曜には堰の上流にもう一家族いて今一番目立っています。中洲にはオオタカが飛来しており季節は確実に冬へと変わりつつあるようですね。

11月28日　七中近くの野川でアオサギを見ました。一瞬ゴイサギかとも思いましたが…どちらにしろコサギやダイサギとは違う美しい羽の色に見とれてしまいました。

※いつのまにか季節は冬になろうとしています。木の葉の落ちるこれからは鳥の観察に最適。双眼鏡を片手に崖線の小鳥や水鳥をウォチングにでかけましょう。

雑木林の植物　その見分け方

クスノキ科の①シロダモと②ニッケイ
葉のつき方は①1ヶ所から輪生②対生・互生、
葉脈はいずれも3行脈で①1本が途中からわかれ、②主脈から3方にくっきり分かれています。
名前の通り葉の裏の白いのがシロダモ。ニッケイは葉をもむと特有の香りがあります。

入間・樹林の会　プチ違いシリーズより

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへおいで下さい。

●12／19（日）9:30～12:00
おちばかき他

●1／16（日）9:00～15:00
方形枠調査保全活動ほか懇親会

カニ山の会

原則毎月第2土曜に深大寺自然広場東樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接野草園横へ。

●12／11（土）10:00～12:00

●1／8（土）10:00～15:00
山開き、及びキャンプ場で懇親会の予定

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●12／12（日）9:30～12:00

●1／9（日）9:30～12:00

◆先の3グループとも活動への参加、その他は緑と公園課へお問合せ下さい。

編集後記

●ニューヨークに行って来ました。あちらの紅葉もすばらしく、公園整備の市民活動は盛んでした。帰国すると調布も紅葉真っ盛り。今年は特別色鮮やかです。（NK）

●十二月は「雑木林塾」業務がないので気分に余裕が。気になっていた壁際の家具を並べ替えてみた。お「イイネ！」♪♪二〇一一年も発想豊かに足まめに。（江刺）

市民発　ちょうふの自然だより

◆この「自然だより」は 2009.3.15 に設立された市民組織「ちょうふ環境市民会議」が編集発行しています。身近な自然情報や写真、環境イベント案内、市民活動の記録、花のコラムなどを掲載しています。カンパとボランティアで支えられて現在隔月発行中です。

◆“自然だより”は調布市環境部（市役所8F）、市図書館 10 館、地域福祉センター、あくろす 2・3F、たづくり 11Fみんなの広場、郷土博物館、実篤記念館、のほか、曼珠苑さん、みさと屋さん、などに置いてあります。ひきつづき応援団募集中です。

発行：ちょうふ環境市民会議　連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org　※自然に関する情報や写真など、いつでもお寄せ下さい。